

令和元年度 財務レポート



公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

理事長あいさつ

本学は、平成 28 年 4 月に公立大学法人となりました。これを契機に山陽小野田市の落ち着いた教育環境に根付き、自治体や企業からの連携協力を得ながら、“教員と学生の近さ”、“学生同士そして地域との緊密な繋が”、“地域からの熱い支援”などの本学の魅力である素晴らしい環境のもとで、学生ファーストの有意義な大学生活が実感でき、「本学に入学して本当に良かった」と言っていただけの、“スマイルシティーキャンパス”を目指しています。

今後、ますます激化する大学間競争、超高齢化時代とスマート社会の到来など非常に複雑な社会構造の急速な変化の中で、本学がより一層のプレゼンスを継続的に高め、勝ち残っていくためには、法人の安定した経営基盤のもと、工学及び薬学分野の教育研究を通して人材を育て地域と共に発展していくことが重要です。

そのために、教職員が一丸となって戦略的かつ革新的な大学運営に努め、強固な財政基盤の構築を図り、コンプライアンスを徹底することで、本学のステークホルダーである学生、御父母、市民、県民などの期待と信頼に応え、選んでいただける地域・社会連携の拠点づくりを進めて参ります。

学生たちが素晴らしい出会いを大切にして、実力を持って自らの将来を拓き世界に大きく羽ばたけるように全力を尽くしますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和元年度の財務レポートをまとめましたのでご報告致します。

皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



公立大学法人山陽小野田市立
山口東京理科大学
理事長 池北 雅彦

目次

理事長あいさつ	1
決算総括	2
貸借対照表	3
損益計算書	4
キャッシュ・フロー計算書	5
行政サービス実施コスト計算書	6
決算報告書	7
令和元年度の主な取り組み	
教育に関する取り組み	8
研究に関する取り組み	10
地域貢献に関する取り組み	12

決算総括

令和元年度決算については、法人全体として 227,457 千円の当期総利益を計上しました。収入については、学生等納付金収入の増加や受託研究費等の外部資金獲得額の増加がありましたが、施設整備事業の建設計画変更及び研究機器を予算より安価に購入したことにより目的積立金取崩収入が減少し、収入合計で当初予算比 74,025 千円の減少となりました。支出については、外部資金獲得に伴い研究に係る経費の増加がありましたが、目的積立金を財源とした施設整備事業の建設計画を変更したことにより、支出合計で当初予算比 323,964 千円の減少となりました。

財務諸表相関図

貸借対照表 (P.3)

資産	固定資産	固定負債	負債
		流動負債	
	流動資産	資本金	純資産
		資本剰余金	
		目的積立金	
現預金	当期未処分利益 (当期総利益)		

利益処分に関する書類 (P.4)

当期未処分利益 (当期総利益)
利益処分量 目的積立金 (積立額)

キャッシュ・フロー計算書 (P.5)

業務活動	(支出)	業務活動 (収入)
財務活動	(支出)	
投資活動	(支出)	
資金期末残高 (一部)		財務活動 (収入)
		投資活動 (収入)

損益計算書 (P.4)

経常費用	業務費	運営費交付金収益	経常収益
		自己収入等	
	一般管理費	臨時利益	
	臨時損失	目的積立金取崩額	
当期総利益			

行政サービス実施コスト計算書 (P.6)

損益計算上の費用	経常費用	(控除) 自己収入等
		(差引) 業務費用
	臨時損失	機会費用

行政サービス実施コスト

損益外減価償却相当額
引当外退職給付増加見積額 等

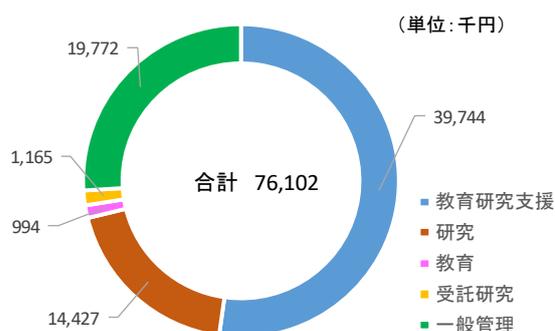
貸借対照表

貸借対照表は、決算日（令和2年3月31日）時点における資産・負債・純資産を表示した、財政状態を明らかにするための報告書です。貸借対照表の負債・純資産はどのようにして資本を調達したかを表し、資産は調達した資本をどのように使用しているのかを表します。

（単位：千円）

区分		令和元年度 開始時	令和元年度 期末時	区分		令和元年度 開始時	令和元年度 期末時
資産の部	土地	816,130	816,130	負債の部	資産見返負債	851,911	797,762
	建物	2,622,337	2,487,090		長期リース債務	7,117	3,558
	構築物	31,335	30,099		固定負債合計 ④	859,028	801,320
	車両運搬具	2,453	3,866		運営費交付金債務	50	50
	工具器具備品	342,898	346,128		預り補助金等	424	-
	工具器具備品(リース)	3,502	2,396		寄附金債務	12,345	15,929
	図書	304,732	312,327		前受受託研究費等	2,048	2,539
	有形固定資産合計	4,123,387	3,998,036		前受共同研究費	-	1,877
	ソフトウェア	82,960	56,511		未払金	291,891	288,828
	特許権仮勘定	653	653		未払消費税等	2,627	3,287
	無形固定資産合計	83,613	57,164		リース債務	3,558	3,558
	長期前払費用	10,656	6,682		前受金	3,421	3,160
	長期性預金	100,000	100,000		預り科学研究費補助金	9,708	10,532
	投資その他の資産合計	110,656	106,682		預り金	19,049	19,393
	固定資産合計 ①	4,317,656	4,161,882		流動負債合計 ⑤	345,121	349,153
	現金及び預金	1,005,661	1,089,156		負債合計 ⑥(④+⑤)	1,204,149	1,150,473
	未収学生納付金収入	-	9,447		純資産の部	資本金(地方公共団体出資金)	3,785,842
その他未収入金	10,297	12,570	資本剰余金	▲ 441,597		▲ 535,686	
前払費用	46,631	40,608	利益剰余金	831,851		913,034	
流動資産合計 ②	1,062,589	1,151,781	純資産合計 ⑦	4,176,096		4,163,190	
資産合計 ③(①+②)	5,380,245	5,313,663	負債・純資産合計 ⑧(⑥+⑦)	5,380,245	5,313,663		

工具器具備品目的別内訳



令和元年度に取得した工具器具備品の目的別の内訳です。取得価額を表し、減価償却前の金額を記載しています。

損益計算書

(単位:千円)

区分		令和元年度
経常費用	教育経費	306,257
	研究経費	123,478
	教育研究支援経費	76,689
	受託研究費	28,473
	共同研究費	24,663
	人件費	1,194,061
	業務費合計	1,753,621
	一般管理費	592,132
	雑損	92
経常費用合計①		2,345,845
経常収益	運営費交付金収益	1,503,306
	授業料収益等	777,357
	受託研究等収益	28,766
	共同研究収益	24,757
	寄附金収益	8,437
	補助金等収益	100
	資産見返負債戻入	106,274
	財務収益	191
	雑益	21,140
	経常収益合計②	
経常利益③(②-①)		124,483

損益計算書は、ある一定期間（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）の業務活動の成果を表した報告書です。経営の理念に基づいてサービスを社会に提供し、満足していただいた活動の結果を利益（又は損失）として計算したものです。

人件費内訳

役員人件費：44,767千円
 教員人件費：856,363千円
 職員人件費：292,931千円

授業料収益等内訳

授業料収益：623,701千円
 入学金収益：97,741千円
 検定料収益：55,058千円
 手数料収益：857千円

臨時利益④	1,486
臨時損失⑤	1,486
当期純利益⑥(③+④-⑤)	124,483
目的積立金取崩額⑦	102,974
当期総利益⑧(⑥+⑦)	227,457

利益処分に関する書類（要約）

(単位:千円)

当期末処分利益	
当期総利益	227,457

(単位:千円)

利益処分額	
教育研究の質の向上及び施設準備積立金	227,457

地方独立行政法人法第40条第3項により、設立団体(山陽小野田市)の長の承認を受ける必要がある金額です。

キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間の収入（キャッシュ・イン）と支出（キャッシュ・アウト）を捉え、キャッシュの流れを計算して表示する報告書です。

(単位:千円)

区分		令和元年度
支出	原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 443,326
	人件費支出	▲ 1,198,707
	その他の業務支出	▲ 524,369
収入	運営費交付金収入	1,537,523
	授業料等収入	739,333
	受託研究等収入	58,401
	補助金等収入	100
	寄附金収入	23,151
	その他の収入	19,690
	預り金の純増減額	1,168
	業務活動によるキャッシュ・フロー合計 ①	212,964
支出	有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 126,101
収入	利息および配当金の受取額	191
投資活動によるキャッシュ・フロー合計 ②	▲ 125,910	
支出	ファイナンス・リース債務の返済による支出	▲ 3,558
財務活動によるキャッシュ・フロー ③	▲ 3,558	
資金増加額 ④(①+②+③)	83,496	
資金期首残高 ⑤	985,660	
資金期末残高 ⑥(④+⑤)	1,069,156	

資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金	1,089,156 円
定期預金	▲ 20,000,000 円
資金期末残高	▲ 18,910,844 円

重要な非資金取引

工具器具備品	3,890,535 円
図書	404 円
合計	3,890,939 円

資金運用について

当法人は、資金運用については地方独立行政法人法第43条の規定に基づき、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しております。
資金運用に当たっては、現状では預金により運用しております。

ファイナンス・リース

- ①ソフトウェア 14,715千円
(平成28年から6年契約
年間 2,452千円の支出)
- ②工具器具備品 5,530千円
(平成29年から5年契約
年間 1,106千円の支出)

行政サービス実施コスト計算書

(単位: 千円)

区分		令和元年度
業務費用	業務費	1,753,621
	一般管理費	592,132
	雑損	92
	臨時損失	1,486
	損益計算上の費用合計①	2,347,331
	授業料等収益	▲ 777,357
	受託研究等収益	▲ 53,523
	寄附金収益	▲ 8,438
	資産見返運営費交付金等戻入	▲ 18,284
	資産見返寄附金戻入	▲ 37,743
	雑益・臨時利益等	▲ 12,315
	(控除)自己収入等合計②	▲ 907,660
	業務費用合計③(①+②)	1,439,671
損益外減価償却等相当額④	137,388	
引当外賞与増加見積額⑤	8,756	
引当外退職給付増加見積額⑥	18,342	
機会費用	国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用	478,540
	地方公共団体出資の機会費用	165
	機会費用合計⑦	478,705
行政サービス実施コスト(③+④+⑤+⑥+⑦)		2,082,862

行政サービス実施コスト計算書は、本法人が業務を運営するにあたって、市民のみなさまに負担いただいているコストを表す報告書です。業務費用に加えて、機会費用等（山陽小野田市の資産等を利用したことによる市民のみなさまにとっての負担額など）を加算したのから、業務運営により得られた自己収入等を控除して算出しています。

費用	機会費用 損益外のコスト
自己収入	行政サービス実施コスト

地域への経済波及効果

山口東京理科大学が立地することによる
地域への経済波及効果(令和元年度)

	山口県	山陽小野田市
直接効果	23.9 億円	14.5 億円
生産誘発額	20.4 億円	12.3 億円
付加価値誘発	12.4 億円	7.5 億円
総合効果	56.7 億円	34.3 億円

行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

(1) 国又は地方公共団体財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計上方法

山陽小野田市から、大学の建物等について無償貸与を受けており、これらについては、山陽小野田市における取得原価を基礎とした定額法による減価償却額相当額を計上しております。また、学外に設置された薬草園に係る使用料については、山陽小野田市都市公園条例に基づき算定した額を計上しております。

(2) 地方公共団体出資の機会費用の計上方法

機会費用は、新発 10 年国債の令和 2 年 3 月末の利回りを参考に 0.005% で計算しております。

決算報告書

第4期(令和元年度)

(単位:千円)

区分		予算額	決算額	差額 (決算-予算)
収入	運営費交付金収入	1,537,523	1,537,523	-
	補助金収入	8,180	10,601	2,421
	学生等納付金収入	726,343	749,368	23,025
	財務収入	130	191	61
	雑収入	10,358	10,639	281
	受託研究収入	18,964	24,232	5,268
	共同研究収入	16,938	23,826	6,888
	寄附金収入	5,805	23,151	17,346
	目的積立金取崩額	275,588	146,273	▲ 129,315
収入合計①		2,599,829	2,525,804	▲ 74,025
支出	教育経費	299,929	254,639	▲ 45,290
	研究経費	94,412	83,997	▲ 10,415
	教育研究支援経費	144,289	123,977	▲ 20,312
	受託研究費	18,964	22,728	3,764
	共同研究費	16,938	22,315	5,377
	寄附金	5,805	19,567	13,762
	人件費	1,316,875	1,190,840	▲ 126,035
	一般管理費	701,617	557,802	▲ 143,815
	予備費	1,000	-	▲ 1,000
支出合計②		2,599,829	2,275,865	▲ 323,964
収入-支出 (①-②)		-	249,939	249,939

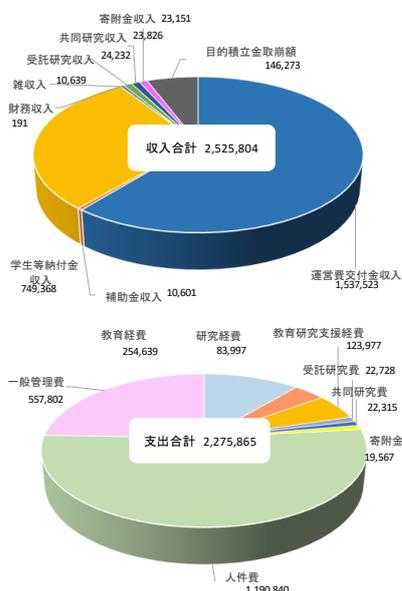
授業料収入の増加

外部資金獲得額の増加

建設計画の変更及び研究機器を予算より安価に購入したことにより減少

外部資金獲得額の増加に伴い、研究費の支出も増加

建設計画の変更により減少



本学の収入には、①市等からの収入(運営費交付金など)、②自己収入(学生等納付金、補助金、受託研究費、寄附金など)、③その他の収入(財務収入など)があります。

中でも、自己収入は大学の経営努力によって大きく変動します。本学では、外部資金獲得に向けた取り組みなどを通して、さらなる自己収入の増加を目指しています。

令和元年度の主な取り組み

教育に関する取り組み

オランダ・ヘトウウェンテ大学教員の薬学倫理SDGs 特別講義を開催

令和元年 10 月から 3 回に分けて、薬学倫理の授業ヘトウウェンテ大学（オランダ）から Frans Stel 先生を招聘し、2015 年 9 月に国連総会で定められた「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」で示された持続可能な開発目標（SDGs）に関する講義を行っていただきました。

Frans Stel 先生から「未来は私たちの手の中にある。未来を予言することはできない。現在は地球 3.5 個分を消費している。」など、現状に警鐘を鳴らし、いかに環境に配慮し持続可能な社会にするかお話しいただきました。



小学生が学ぶジェネリック医薬品教室を開催

令和元年 12 月、本学薬学部にて、「薬を上手に使う～小学生が学ぶ ジェネリック医薬品のそうなんだ!～」を開催しました。「くすり」を安全に安心して使うために大事なことや、今話題のジェネリック医薬品について学びました。

本教室は、宇部・山陽小野田・美祢地域ジェネリック医薬品安心使用促進連絡会議により主催され、特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（J-Do）にご後援いただき、本学からも薬学部和田光弘教授、武藤純平准教授が講師として参加し、多くの薬学生も実験サポートとして参加しました。



「オリジナル和菓子・洋菓子アイデアコンテスト表彰式」を開催

令和元年 12 月、本学にて「オリジナル和菓子・洋菓子アイデアコンテスト表彰式」を開催いたしました。地域に密着した本学オリジナル菓子の開発について学生からアイデアを募集し、応募されたアイデアの中から審査を行い表彰しました。

表彰式では森田学長から表彰状と副賞が授与され、学生から「まさか受賞するとは」と言いながらも笑顔がこぼれていました。



米国バージニア大学教授による特別講義を開催

米国バージニア大学工学部社会学科長の W. Bernard Carlson 教授をお招きし、令和元年6月に、薬学部にて開講している「薬学倫理」の授業において、「国際的薬害倫理問題の症例検討」をテーマにした特別講義を行いました。特別講義では、Carlson 先生が数名程度のスモールグループ各班一つ一つに入っただき、薬学部生と英語による活発な議論が繰り広げられました。



山口県病院薬剤師会と連携協定を締結

本学と、山口県病院薬剤師会は、知的・人的資源の交流及び活用を図り、地域の健康・医療・福祉の発展に寄与することを目的として、包括連携・協力に関する協定を締結し、8月に協定調印式を本学で執り行いました。池北理事長はあいさつで「病院薬剤部の医療現場における薬剤師の先進的な取り組みを、実務教育をはじめとする教育カリキュラムを通じてご教授いただくとともに、医療現場における課題に基づく社会に貢献することのできる医療系薬学研究を推進するため、連携をお願いしたい。」と述べました。



船木鉄道株式会社と公共交通活用フリーパスに関する連携協定を締結

本学と船木鉄道株式会社は、公共交通フリーパスに関する協定を締結しました。

本協定により、令和2年4月から、本学に通う学生は学生証を提示することで、船木鉄道株式会社（船鉄バス）が運行する路線バスの全路線を無料で利用できます。

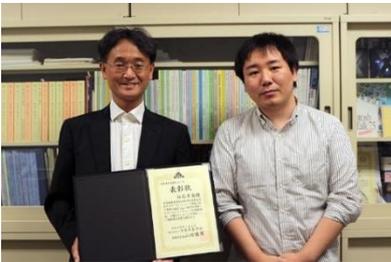


白石教授・秦助教が日本写真学会編集委員長賞を受賞

日本写真学会において、令和元年7月に本学応用化学科の白石 幸英教授が2019年度年次大会で発表された論文「Ag ナノ粒子を担持したカーボンナノチューブの熱電特性」が令和元年度編集委員長賞を受賞しました。

白石教授は、秦助教・研究室学生と未利用熱エネルギーを電気エネルギーに直接変換する熱電変換材料に、銀ナノ粒子で修飾したカーボンナノチューブが有効であることを見出しました。

今後は、実用化も視野に含め現象を追求し、研究を進める予定です。



大学院生の研究が助成事業として採択

公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団が公募した平成30年度助成事業に本学の大学院 博士後期課程2年 薄川 隆太郎さんが行っている研究課題が採択されました。

薄川さんは「これを皮切りにたくさんの賞や助成金を獲得し、様々な人に工学部に関心をもっていただくことで本学の研究が発展していけるよう、精進します。」と話しておられました。



■ 助成対象者 工学研究科工学専攻博士後期課程2年 薄川 隆太郎 (指導教員：石川 敏弘 教授)

■ 研究課題 「粒界固相焼結を用いた常圧熱処理による炭化ケイ素焼結体合成プロセス開発に関する研究」

魅力ある大学づくりに向けて



学友会主催「クリスマスパーティ」の様子

① 志願者情報

令和2年度の入学者選抜試験において、入学定員工学部200人に対して2,018人、薬学部120人に対して1,143人の志願者がありました。

② 学生満足度

令和元年度山口東京理科大学大学生生活意識調査での設問「全体的にみて本学の学生生活に満足していますか」に対して、87%の学生より「とても満足している」、「まあ満足している」の回答をいただきました。

③ 就職率

令和元年度の学部卒業生96%、修士課程修了者100%という、高い就職率を達成することができました。

大学院生の研究が2019年度笹川科学研究助成に採択

日本科学協会が実施する「2019年度笹川科学研究助成」に本学の大学院 修士課程2年 植田 知美さんの研究が採択されました。

笹川科学研究助成は、課題の設定が独創性・萌芽性をもつ研究、かつ発想や着眼点が従来にない新規性をもつ 35歳以下の若手の研究を支援するものです。採択率は例年 20%程度という狭き門であり、博士課程学生、ポストドクター、助教などの若手研究者が主に助成対象となる中での採択です。

■ 受賞者 工学研究科工学専攻修士課程2年 植田 知美
(研究指導教員：橋本 慎二 教授、佐伯 政俊 講師)

■ 研究課題 「SAAのアミロイド線維の基本構造の解明とレーザー照射による続発性アミロイドーシスの治療技術への応用」



宇部興産株式会社と包括的連携基本合意書を締結

本学と宇部興産株式会社は、互いに協力して取り組むべき新たな技術の研究開発ならびに人的交流を進めることを目的として、包括的連携基本合意書を締結し、令和元年11月に調印式を本学で執り行いました。

調印式では、本学の池北雅彦理事長と宇部興産株式会社の泉原雅人代表取締役社長が合意書に署名を行い、固い握手が交わされました。



Bridge Building Award を受賞

令和2年1月、本学工学部の石川敏弘教授が、セラミックス分野の学術団体として最も大きい American Ceramic Society から、Bridge Building Award を受賞致しました。

この賞は、セラミックス材料に関する国際的な学術的貢献を行った研究者に対し、毎年一人に授賞するものです。石川教授は炭化ケイ素系繊維を中心とした機能性セラミックス繊維材料に関して発表した「Natureの2つの論文」と「Scienceの1つの論文」の学術的内容とその後の技術的進展が評価されました。



地域貢献に関する取り組み

薬学部生から山陽小野田市役所に薬用植物を寄贈

薬学部生による薬用植物愛好会が、薬用植物であるパイナップルミント、カレープラント、タイム、ワレモコウの4種類を寄せ植えした鉢を、山陽小野田市役所に寄贈しました。薬学部生が寄贈した薬用植物は、平成30年秋に開催された「山口ゆめ花博」で植栽された薬用植物を薬学部附属薬用植物園で栽培し株分けしたものです。

贈呈式は、山陽小野田市役所の玄関で行われ、薬用植物愛好会会長の豊永珠生さん（薬学部2年生）をはじめ8人の学生が出席。山陽小野田市の藤田剛二市長に目録と、薬用植物を紹介するプレート付きの鉢が渡され、藤田市長から感謝状をいただきました。



復活！住吉まつりに参加

令和元年5月に「復活！住吉まつり」が開催され、本学からは学生団体がブース出展及びパレードに参加しました。太平洋セメント様保有の「龍」を本学の学生たちがかざして路地を練り歩き、メインステージで舞う「龍舞」は、この祭りになくてはならないものとなりました。また、学生や教職員が科学の紹介を行うブースを設け、子供達や市民の皆さまに学びの成果を知っていただく好機となりました。



「スマイルハロウィンさんようおのだ2019」に参加

令和元年10月、おのだサンパークにて「スマイルハロウィンさんようおのだ2019」が開催され、本学からは総勢110名を超える学生が参加してこのイベントを盛り上げました。

「スマイルハロウィンさんようおのだ2019」は、観光・交流の風土づくりを行うことを目的に、産官学民一体となってオレンジやハロウィンを演出に活かしながら山陽小野田市の魅力をPRする、今年から開始されたイベントです。

当日のステージイベントでは、「ダンス部」および「女子ダンス部」がキレのあるダンスを披露し、観客を魅了しました。また仮装パレード・仮装コンテストでは「学友会」が審査員の大役を担うとともに、「ボランティア部」を中心とした多くの学生がボランティアスタッフとなり、円滑な進行をサポートしました。



「薬学的サイエンスカフェ」を開催

令和元年11月、本学にて「薬学的サイエンスカフェ」を開催しました。これは、山口県「地域で活躍する薬剤師」総合支援事業の一環として、山口県、山口県薬剤師会、山口東京理科大学薬学部の産学公の連携により、薬剤師の県内就職を促進するために取り組んでいるものです。

はじめに、山口県薬剤師会会長の中原様から開会のあいさつがあり、その後、病院薬剤師、行政薬剤師、薬局薬剤師など様々な職種の薬剤師の方々12名が、御自身をPRするカフェスペースを構え、薬学部1年生と仕事内容や職場環境など情報交換を行いました。薬学部生たちは、12のカフェスペースを自由に訪問し、未来の進路を描きました。



第10回山陽小野田市「かがく博覧会」を開催

令和元年9月、おのだサンパークを会場に「かがく博覧会」を開催しました。この博覧会は、山陽小野田市・山陽小野田市立山口東京理科大学連携協議会が主催しており、市内の小・中学生の科学作品の展示や、市内高校・大学・企業による実験コーナーが公開され、本学からは6つの実験ブースを出展しました。今年は10周年記念企画としてゲスト講師によるサイエンスショーを特別開催し、約4,800人の来場者がありました。また、科学作品展では科学作品約200点の中から学長賞を授与しました。



研究・技術公開2019を開催

令和元年12月に「研究・技術公開2019」として「研究室公開」と「技術相談会」を同時に開催しました。

これは、地域企業の皆様に大学が有する知的資源や研究シーズを紹介することで、企業の抱える技術課題の解決の糸口を見つけていただくことを目的としたイベントです。

また毎月、小野田商工会議所および山陽商工会議所の会報に、本学の研究技術の紹介を紹介しています。

